

薬史学会通信

No.26 1998年5月

〒113-0032

東京都文京区弥生2-4-16

(財)学会誌刊行センター内

日本薬史学会事務局

Phone (03) 3817-5825

FAX (03) 3817-5830

日本薬史学会 共催 講演会ご案内 日仏薬学会

日時：1998（平成10）年6月5日（金）18:00より

場所：日仏会館501号室 TEL 03-5424-1141

渋谷区恵比寿3-9-25

JR恵比寿駅下車 エビスガーデンプレイス向い側

演題：辰野 美紀「フランスの臨床薬学の歴史」

参加費：500円

お問合せ TEL 03-3946-6041（辰野高司）

FAX 03-3945-0766

日本薬史学会秋季講演会予告

日時：1998（平成10）年11月21日（土）午後

場所：東京都品川区荏原2-4-41 星薬科大学

演者：鈴木郁生氏：「国立衛生試験所の変遷」（仮題）

永井恒司氏：戦後薬学国際交流の活動から—— FIP, FAPA, FAPA-CP ——

報告

第33回国際薬史会議（スウェーデン）に参加して

—「日本の緩和医療とモルヒネ使用の現状」のポスター発表

東京薬科大学 宮本 法子

1997年6月9日夜、私たちはロンドン経由でストックホルムに到着した。電が降るほどの寒さが一転して、翌日は、まるで初夏のように晴れ上がり白夜の長い一日が始まった。

スウェーデンについては、本会の高橋文先生のシュンベリー研究を介して身近に感じていたが、世界で女性が一番生き生きとしている国と聞いてますます関心をもった。

それは、街を歩くとすぐ感じとれた。シンプルなスタイルの女性たちがさっそうと歩く姿は気高くさえ見えた。スウェーディッシュ・スマイルとよばれる優雅なほほえみにはついみとれてしまう。

女性だけに感動したわけではない。850万人の人口といってしまうとそれまでであるが、ストックホルムは中央駅にあっても実に静かで落ち着いている。

構内放送は短く、発車時刻が来てもベルがなることもなくスーッと電車が出る。情報量は最小限でよいということか？ 時間がのどかに過ぎて人も街全体も優しく穏やかに見える。豊かさとは何かを問いかけた滞在でもあった。

さて、私は岐阜薬科大学の飯沼宗和先生と表題のポスター発表を行ったので内容を簡単に書いてみたい。場所はノーベル賞授賞式が行われるコンサートホールであった。

日本では、近代医学の発展により「高度先進医療」が推進される一方、毎年26万人以上の人々が、がんで死亡し死亡原因の第一位となっている。がん罹患率の高さは、世界的にも深刻な問題である。特に末期がん患者の70%が強烈な痛みを訴えているといわれ、

WHOは世界中のがん患者の痛みをとることを急務であると判断し、「WHO方式癌疼痛治療法」を1986年に公表した。この際、用いる鎮痛薬は痛みの度合いに応じて三段階にわけられ、一番強力な薬剤はモルヒネとなる。

この「WHO方式癌疼痛治療法」は、世界数カ国で試行され、日本では埼玉県立がんセンターが試行し、その有効性を証明した。その後、厚生省や医師会が、講習会を開くなど普及に務めた結果、1987年以来医療用モルヒネの使用量が画的に増えてきた。医療用モルヒネの消費量はがん疼痛治療の進歩と比例するといわれるが、日本の場合、増加したとはいえ欧米に比べると非常に少なく、たとえば英国の1/12以下である。発表では、日本の医療従事者たちが長年、使用を回避してきたモルヒネの歴史とその社会背景、さらには、痛みをコントロールし患者の生命の質を高める日本の緩和医療の発展と現状について考察した。

詳細については改めて投稿したいと思っているが、最近まで、日本では病気の診断、治療に重点がおかれ、終末期の患者の心理や生活まで考えにいられた医療はなかった。1970年代、イギリスを初めとして世界各国に起きたホスピス運動を発端として、患者を抱えている肉体的、精神的、社会的苦悩を理解し、患者の生命の質（Quality of Life）を尊重する考えが生まれた。日本では1973年に、初めてホスピスケアが始まり、1981年にホスピスが開設され、1990年には国が緩和ケア病棟の施設基準を作り保険診療の一つとして認めた。その結果、「緩和ケア病棟のある病院」が全国

で1997年には31施設に増えてきた。しかし末期がん患者の数からするとまだまだ不足している。

また、医師への啓蒙も欠かせない。昭和大学病院は日本初の緩和ケアチームを作り、医学教育の強化をはかった。「緩和ケアにはチーム医療が望ましい」との観点から、医師、心理カウンセラー、音楽療法士、ボランティア、事務局が活動を続け、私もこのメンバー

に加わっている。

緩和医療（緩和ケア）は、新しい医療パラダイムであり、今後、超高齢化社会が予測される日本において必要不可欠の医学といえよう。誰もが避けることのできない人生の最期を、痛みを伴うことなく、人間の尊厳を失わず患者の人格が尊重される緩和医療の普及を願って、さらに研究を続けていきたいと思っている。

東京大学薬学部図書館・薬史学文庫について

このたび東京大学薬学部当局のご理解を得て、同学部図書館の一隅に薬史学関係の書架を設置することになりました。各時代の標準的教科書をはじめ、薬学関係の名著を揃え、研究に供して頂くべく準備を進めております。

本格的な薬学図書館としては、岐阜県川島町、エーザイ工園内にある『内藤記念くすり博物館』があります。日本薬史学会としては、ここと連携を保ちつつ、基礎的学習の支えとなり、更に貴重な図書の散逸を防ぐ努力を重ねる所存であります。

未だ収集の段階であり、リストも作製中ではありますが、閲覧の要望も出されております

ので、近日中に開扉いたします。ご利用の手続き等は次ページの通りです。本会の発行する閲覧証を所持する本会会員が、東大薬学部図書館受付（2F）で所定の手続きをして下さい。

図書館ではご提示頂く閲覧証と、本会事務局から通知した閲覧登録名簿を照し合せの上閲覧の指示を出してくれる筈です。

薬史学文庫閲覧ご希望の方は本会事務局まで、会員氏名をご連絡下さい。事務局では、お申込により閲覧証を郵送し、東大薬学部図書館受付へ閲覧希望者名簿の写しを送達しておきます。

お尋ね。郵便振込で会費納入をされた会員へ

右図のように本10年2月5日に、本郷四丁目郵便局から送金された方の氏名記載が無く、業務処理に困っております。お心当りの方は本会事務局までお申出ください。

02		払込取扱票		通常払込料金 加入を義務	
口座番号	001203	金額	1671473	通貨	円
振込先	日本薬史学会	期日	10/05	振込種別	普通
振込元		受付日		印	

通知番号 64号
 口座番号 001203- 67473
 払込金額 5,000円
 口座振替料金 70円
 取扱年月日 平成10年 2月 5日
 取扱局 本郷四
 ? 郵便局 (00216)
 東京 野金事務センター
 一連番号 (01) 90240054
 00000005000
 3



東京大学薬学部図書館・薬史学文庫利用案内

東京大学薬学部図書館

日本薬史学会

本「薬史学文庫」は、日本薬史学会所属の会員諸氏の所蔵にかかわる、薬史学に関する図書資料の寄付を受け、ここに収蔵し、利用に供するものである。

収蔵図書資料は薬学関係者の貴重な図書、薬学関係の貴重な教科書、薬学者の史伝、製薬企業史、大学および研究所史、薬学史および科学史などの図書資料を中心に収蔵され、さらに写真資料なども含め、今後増加されていく（収蔵目録は別途）。

このように収蔵図書資料のなかには薬学史研究上貴重なものが多く含まれている。それ故、広く利用に供すると同時に、一方でその利用に当たっては、薬学図書館収蔵の他の図書資料の利用に比し、相対的に厳しい条件を付与してある。

「薬史学文庫」の利用は次の条件による。

1. 利用対象者

本文庫図書資料を利用することが出来る者は、薬学部図書館を利用することが出来る者と、薬史学会員である。

2. 利用方法

本文庫図書資料を利用しようとする者は、日本薬史学会発行の閲覧証を提示の上で図書館2階のカウンターへ申込み、「本文庫図書資料利用申込書」に氏名、所属または住所を記入し、鍵を受け取り、利用する図書資料をカウンターへ持参して、同申込書に利用図書資料名を記した上で利用する。なお、鍵はその都度返却する。

本文庫に収蔵する図書目録を作成し、随時、薬史学会の常任理事により追加補正する。

3. 利用時間

本文庫図書資料の利用時間は、10時から16時までの間とする。

4. 貸出

貸出は行わない。

5. 複写

研究上必要な複写は可能であるが、複写図書資料の取り扱いには十分注意すること。

なお、「禁複写」に指定されている図書資料は複写することが出来ない。

6. 返却

利用者は、利用の済んだ図書資料はカウンターへ持参し、利用申込書に返却確認を受けなければならない。